

令和3年度原町区地域協議会視察研修（事務局案）について

1 視察先選考までの経過

- ・市では、原町区地域協議会の令和3年度の視察研修予算として1泊2日分の予算を確保。
- ・第2回地域協議会（5月26日開催）にて、委員に視察希望アンケートを提出するよう依頼。
- ・第3回地域協議会（8月18日開催）までに、6人の委員がアンケートを提出。
- ・アンケート結果は、第3回地域協議会にて報告。

2 日帰りを提案する理由

- ・アンケートでは、日帰りを希望する委員が4人、希望日が未記入の委員が2人だったため、1泊2日で実施した場合、参加者が少なくなることを想定。
- ・今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを少しでも回避するため、遠出はせず、移動時間を少なくし、研修を充実させることを検討。

3 視察研修先の選定理由

- ・アンケートの中で、宮城県富谷市では、少子高齢化の中で、どのようにして人口増加を続けているのか、取り組みを学びたいとの意見があった。また、他委員からは、協働のまちづくりの推進の方策や、若者のコミュニティ参加を促す方策を学びたいとの意見もあった。
- ・本市の復興総合計画後期基本計画では、「若者が新たなことに挑戦できるような環境づくりと高齢化した市民が生涯現役で支え合い住み続けられる地域づくり」を進めるため、優先的に行う取組として復興重点戦略を掲げている。
- ・富谷市は宮城県中心部に位置し、仙台市に隣接しており、豊かな自然環境の下若い世代が多く移住している。富谷市では、富谷市地方総合戦略の中で①「企業誘致の実現による新たな雇用の場の創出」②「スイーツ等による『とみやシティブランド』の確立」③「未来を担う子どもたちを育てる環境のさらなる充実」④「生活圏を踏まえた暮らしやすさの一層の向上」の4つの柱を設けて実践している。令和2年5月31日時点での人口は約5.2万人で、本市に近い人口ながら、人口増加を続けており、本市の復興総合計画及び移住・定住政策を集める上でも、有益な研修ができると判断。

4 視察先と選定理由

- ・富谷市役所
「富谷市地方総合戦略」及び「富谷市人口ビジョン」について学ぶ。

- ・西成田コミュニティセンター（旧西成田小学校の校舎）
昭和49年閉校となった校舎を、当時の面影を残しつつ改修を行い、現在は自然の中で活動できる施設（西成田コミュニティセンター）として活用されている。その施設がさらに今後、不登校特例校「富谷市立富谷中学校西成田教室」として令和4年4月に開校する予定。本市も閉校となった校舎の利活用などの課題を抱えているため、研修先として選択した。
- ・とみやど（富谷宿観光交流ステーション）
富谷宿観光交流ステーションは、地域創生拠点整備交付金を活用し、内ヶ崎醤油店跡地を活用し、今年5月にオープンした新しい施設である。観光交流の拠点及び起業・創業の実践・チャレンジの拠点として整備を進めており、本市の復興総合計画で掲げている「多様な人材が活躍するまち」の取組みを推進する視点で、研修先として選択した。

5 研修先・所在地

- ① 富谷市役所
〒981-3392 富谷市富谷坂松田 30 番地
- ② 西成田コミュニティセンター
〒981-3324 富谷市西成田郷田一番 94 番地
- ③ 富谷宿観光交流ステーション
〒981-3311 富谷市富谷新町 111-1